

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録 第 4 号

令和2年 12月 2日

横浜市小学校教育研究会

会長 相 澤 昭 宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅 田 比奈子

3 学年部長 岡 村 伸一郎

【提案日時】

11月 4日 (水)

提案 東方 早紀先生 (横浜市立大綱小学校)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

提案 笠井 俊充先生 (横浜市立永田台小学校)

司会 小倉 智弘先生 (横浜市立別所小学校)

記録 小森 竜也先生 (横浜市立汐見台小学校)

① 大綱小学校 東方 早紀先生

「単元を見通す学習問題の成立過程 ～横浜市と共に歩んだ大綱小より～」

○ズレを大切にする

今の横浜市 (新横浜駅) と50年前の横浜市 (新横浜駅) の様子を見比べる。

・土地の様子 人口 交通 生活や様子

⇒写真から読み取れるズレから単元を見通す学習問題が成立していく。

○市の移り変わりの学習の進め方の紹介

・100年前、50年前、現在などの時代ごと

・人口、交通、土地、生活などの視点ごと

② 永田台小学校 笠井 俊充 先生

3年「工場ではたらく人と仕事～ほぼ同じ重さのパンを作るKパンのひみつ～」

【授業者から】

○本気の学習課題及び事象の意味について

パン製造を行う上で、17のチェック項目、服装等でも衛生面が重視される。しかし、職人が直接素手で生地に触る場面があり、そのズレから本気の学習課題を追究していけたらと考えた。しかし、柔らかさや手触りのニュアンスの違いも扱うことができたならよかったのではないかと考えた。ふり返りのキーワードとして「頭をさ～わかすとも」を扱い、主体的な追究活動になったと考える。

【討議】

・職人の言葉を直接取り上げることができていたら、よりよかったのではないかな？

職人の思い → 教師からの言葉 → 児童の受け取り

教師の言葉の比重が大きかったのではないだろうか。

・手と手袋は対立軸となるのか？ 手と機械の対比で、価値づけもできるのではないかな？

・職人の工夫、こだわりはどのような感じなのだろうか？

取り上げすぎると答え合わせになってしまう。納得探しを重視したかった。

- 職人の工夫やこだわりなどの資料については、やはり児童の必要感がどの程度かによる
- ズレの設定
「なぜ手？」だけでなく「機械だけでなく」も入っていくとよりズレからの発見になるのではないか？
 - ふり返り
子どもの納得していない思い、もっと追究したいを扱っていけるとより良いのではないか？

<講師の先生より>

【笠間小学校 黒田由紀子校長先生より】

- 笠井先生が取り上げたKパンは、工程の中でついたであろう出来立てのパン特有の水滴などがあり、人間味のあるパン。
- 3万個を均一に作るにはやはり機械が必要なのだが、味の良い、高品質のパンを作る上では職人など人の手が必要となる。その秘密はどこにあるのか？等、教材観を明確にできるか？
- とある児童の「素手じゃないといけない理由がある」に対しての事実はどこにあるのだろうか。抽象でなく具体で示せるとよりよい。職人が水分や感触に納得できない場合、その製品（生地）はどうなるのか？
 - 売れるものを大量に（3万個）作るには効率性が求められる。
 - 味へのこだわりのために職人の技が求められる。
 - 効率性vsこだわり というジレンマがあるが、利益追求のための経営的な選択判断を行っている面も取り上げたい。
- 社会科は習得を目的とした学習でなく、モヤモヤして終わるもの。
→現実として、大人が見ている世界を見る必要。
- 様々な指摘等があったが、今後もブラッシュアップしながら続けていくことで、生産の学習についてより追究できるのではないか。

文責 関口 暁之（永谷小学校）